

尾州有楽流 風炉 逆勝手 薄茶点前 ノーマル版

* 本勝手と同じく、向かって左に風炉、向かって右に水指を配する

* 濃茶の場合は茶入を水指前に飾り付けておく

* 濃茶の場合は、以下の薄茶の手順に濃茶の手順が加わる

茶道口にて一礼

左手に茶器、右手に茶碗を持って（本勝手と逆）入る

点前座に座り、茶器・茶碗を右膝前あたりに仮置きする

左手で茶器を水指前の少し左寄りに置く

右手で茶碗を茶器の右に置く（茶器の左端から茶碗の右端までの中央が水指中央の真ん前になるように）

立ち上がって、茶道口に戻る

仕組んだ建水を右手で持って入り、点前畳の前に座って、少し左手をのばして、建水の定座に置く。（定座に届かなければ、届く範囲で良い）

襖を閉めて点前畳に戻って定所に座る

柄杓を右手で取って左手に持ち替えて構える

右手で蓋置を取って右膝上あたりで正面を確認し、
敷板の左（敷板前端の延長線から出ないあたり）に置く

柄杓を右手に持ち替え、蓋置に引く（切留は釜の蓋の摘みの位置）

客へ挨拶

※居住まいを直すのであれば、ここで直す

※建水が右膝あたりの定所になれば、このとき建水を定所に移す

茶碗を右手で取り、居前の少し向こうに置く

茶器を左手で取り、居前に置く

帛紗を右手で取って、草に捌く

以下、下記の本勝手との相違点のほかは本勝手と同じ

* 帛紗は勝手付でさばく

* 釜蓋など勝手付（道具の無い方）に向けて拭く

* 茶碗から湯水を建水に捨てるさいに右手で捨てる（従って茶碗を清めるさいは湯を捨てて茶碗を左手に持たせてから右手で茶巾を取る）、

* 茶が点ったら斜め左を向いて左側に出す、

（仕舞いに、茶杓を清めて茶碗にかけたら）

茶器を右手で最初に置いた場所（水指の左前）に移す

茶碗を右手で茶器の右に移す

柄杓を取って合を水指の前の縁に仰向けに掛けて持ち直し（「草」の取り方）、適宜に水を汲んで釜に入れる

水を入れ終えたら湯返しをする

釜の前の縁に柄杓の合を掛けて持ち直す

柄杓を左膝上に縦にもってきて、左手で節のすぐ下を取り、右手を切留まで下げて、左手も右手のすぐ上まで下げて右手を離し（左手で柄杓を構えている状態になる）、右手で釜の蓋をする

そのまま右手で蓋置を勝手付に移す

柄杓の合をその蓋置の上に置き、
建水を引いて、その建水の縁に柄杓の柄を掛ける

左手で水指の蓋を取る

右手に持ち替え水指の蓋を閉める

客からの拝見の所望を受ける

茶器を左手で取り、右手で持ち替えて左手にのせ、客付に振り向き、右手で居前に置く

右手で茶碗を水指の真中通りに移す

帛紗を草に捌いて、茶器を点前の始めと同じ方法で清める

右手の帛紗と左手の茶器を取り替える
茶入を客を方に向けて出す

帛紗を袂に入れる
(懐中してもよい)

茶杓を客に向け、茶器の下座に置いて出す

(茶道口の襖を開けに行く)

風炉前に戻って、柄杓を右手で取り、蓋置を左手で取って右手に持たせる

そのまま勝手付に居座って、左手で建水を持って立ち上がって水屋に下がる

また出て、茶碗を右手で取って、居前に一度置いて少し持ち直して持つ

左廻りして下がる

茶道口を閉め、道具が戻るのを待つ

道具が戻ったら茶道口を開けて点前座に出て、客の方（鍵畳を方）を向いて座る

茶器を居前に取り込み、それから茶杓を右手で取って左手に持たせ、右手で居前の茶器を取る

客から一礼があるので、道具を持ったままお辞儀をする

茶道口から出たところで座り、脇に茶器・茶杓を置いて一礼し、襖を閉める